

新聞を読もう・新聞に親しもう～読解力・表現力の育成を目指して～

指定校 2 年次 大鹿村立大鹿小学校 武田 光平・湯澤 一倫

（１）本年度の N I E 活動の概要

NIE 研究指定校 2 年目に当たり本校では、新聞を読むこと・新聞に親しむことを通して子どもの読解力・表現力を高めることを目指して取り組んできた。低学年は平仮名や片仮名の言葉に注目し、言葉集めなどの活動、中学年は新聞を参考にした新聞作りや記事を選ぶ活動、高学年は記事の要約や記事の紹介・読み取りなどを中心に実践を行った。それぞれの実践で「語彙が増えた」「要約の力がついてきた」「新聞を真似して工夫した新聞ができた」などの成果があった。

（２）本年度の N I E 活動をはじめる前の状況

本校は、全校児童数 42 名、7 学級（全学年単級 6 + 特別支援学級 1）の山間地にある学校である。昨年度、NIE の研究指定校 1 年目として新聞を活用して学習に取り組んだことで、子どもが新聞を目にする機会が増え、高学年中心に気になった記事を読んでいる姿も見られた。しかし、漢字が読めないことや言葉の意味が理解できないことで内容の理解が困難な児童の様子も見られた。本年度から NIE に取り組む職員は、新聞を活用した授業のイメージが持ちにくい様子もあったため、研究会の中で具体的な授業実践例を共有した。

（３）N I E 活動の狙い（育てたい力）

本年度、本校では全校研究テーマを【「できた！ わかった！ 楽しい！」が感じられる授業作り～自ら学び・表現できる授業・情報活用能力・読解力・表現力を高められる授業～】とし、研究を進めてきた。新聞を 1 つの手段として、子どもの疑問を追究できる授業・対話が生まれる授業作りを意識し、子どもが正しく情報を読み取り、活用する力を育むことを目指してきた。

（４）公開授業以外の N I E の取り組みの状況

① 新聞コーナーの設置

昨年度に引き続き「新聞コーナー」を設置した。計 7 社の新聞が一目で比べられるように新聞を台に並べ、職員・児童が自由に見られるようにした。昨年から継続した取り組みということもあり、新聞を毎日読む児童や新聞を見に来る児童の姿が多く見られた。



② 大鹿村・大鹿小学校の児童の記事が掲載された記事の掲示

大鹿村が取り上げられた記事や本校の児童が書いた文章が掲載された記事を校内に掲示することで新聞を身近に感じたり、興味を持って新聞を読んだりすることができた。

③ NIE タイム

本年度は週に 1 度、朝ドリルの時間を「NIE タイム」とし、新聞を使った活動を各学年で

継続的に行った。活動に慣れてくると、新聞の見方が分かってきたり、読み取りができたやうになってきた。



④ 各学年での実践

各学年で新聞を活用した授業を公開した。

学年	NIE タイム(朝の活動)	公開授業の内容 (教科等)
1	「平仮名・片仮名探し」	国語「かたかなをかこう」 ・図書館にある「カタカナずかん」を参考にして、カタカナずかんにそって新聞にある「食べ物」「生き物」「スポーツ」「乗り物」「外国」「その他」にわけて分類する。
2	「新聞から片仮名を探す活動」	国語「冬のことば」 ・冬を感じられるような写真のある記事を選び、冬の言葉カードをつくる。
3	「新聞作り」	総合「お気に入りを紹介します」 ・学校の中のお気に入りの場所について新聞づくりを行っている。購読している新聞を参考にしながら、よりよいものに仕上げる。
4	「新聞クイズ」 「見出し当てクイズ」	国語「冬の楽しみ」 ・新聞記事から冬の行事、冬に関係のある言葉が載っている記事を探し出し、カルタをつくる。
5	「記事紹介」 「記事の読み込み」	「(5) 公開授業などの活動内容」に詳細を記載。
6	「新聞スクラップ」 「記事紹介」	書写「新聞の書き方」 ・新聞の書き方の工夫を確認した後、実際に見やすいと思う新聞記事の書き方の特徴を参考にしながら、修学旅行での学びを新聞にまとめる。見出しや本文、イラストなどに応じて、使う筆記用具も考えさせたい。

(5) 公開授業などの活動内容

1 第5学年 国語 『資料の力を「知る」「使う」「身につける」』

教材名「固有種が教えてくれること」

2 指導目標

- ・原因と結果など情報と情報の関係について理解することができる。【知(2)ア】
- ・話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。【思A(1)エ】
- ・引用したり、図表やグラフなどに用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。【思B(1)エ】
- ・目的に応じて、文章と図表などに結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。【思C(1)ウ】
- ・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。【思C(1)ア】

3 本単元における言語活動

- ・自ら選び出した記事を、友達からの意見を参考にしながら、資料を追加して視覚的にわかりやすくし、記事の内容を友達に伝える活動。

4 単元計画

時	学習活動	指導上の留意点
1	①単元名を確認し、学習の見通しを持つ。 ②資料なしの本文を読みながら、どの資料がどの内容に当てはまるか考えながら組み合わせる。 ③初めて知ったことや興味を持ったことを伝え合う。	①子どもたちが、説明文での学習を活かして、新聞をリメイクすることを確認するように促す。 ②子どもたちが、説明文の中に問いを持ちながら読み進められるよう、資料がない状態での通読をクイズのように行う。
2 4	④文章構成を押さえながら筆者の論の進め方を確認し、文章の大体を捉える。 ⑤文章と資料のつながりや筆者の論の進め方を捉え、要旨をまとめる。 ⑥筆者が資料を使った意図や効果を考える。 ⑦筆者の考えた説明や工夫について自分の考えをまとめ、伝え合う。 ⑧説明文における資料の有効性を確認する。	④子どもたちが〈初め/中(1)/中(2)/終わり〉を確認め、文章構成と内容を把握できるよう、〈初め/中(1)/中(2)/終わり〉に区切って内容を確認していく。 ⑤子どもたちが、文章と資料の対応関係や論の進め方を確認し、要旨をまとめられるよう、前時の板書を電子黒板に映し出す。 ⑥子どもたちが資料の必要性に着目しながら考えられるよう、複数の資料と資料がないものを用意する。 ⑦子どもたちが筆者の考えに最も共感・納得できたところはどこか、筆者の説明で一番工夫されていると感じたところはどこかを中心にしながら、自分の考えをまとめられるよう、ポイントを全体で確認する。
5 本時	⑨文字だけの新聞記事を読み、その記事に追加することで内容が分かりやすくなりそうな資料を考える。 ⑩新聞記者が用いた資料と自分たちの考えた資料を比較し、記者の考えを捉える。	⑨子どもたちが文章と資料の結びつきを考えることができるよう、資料が1つの記事、2つの記事を文字だけで用意する。
6	⑪集めた新聞記事の中から特に詳しく説明したい記事を選び、内容を理解する。	⑪子どもたちが資料を使うことでより詳しくできそうな記事を選ぶことができるよう、記事選定のポイントを黒板に示す。
7	⑫自分で選んだ記事について、友達から意見をもらい、どんなことが疑問や難しさにつながっているのか知る。 ⑬それぞれの資料の効果について考える。	⑫子どもたちが友達の意見から記事のリメイクのヒントを得やすくなるよう、ノートの取り方を全体で共有する。 ⑬資料の種類や効果を図にして示す。
8	⑭選んだ記事の中から、図表や写真で表すことができそうなポイントを見つけ、適切な資料を選び出す。	⑭子どもたちが、自ら資料を選べるよう、前時の学習を振り返りながら資料の効果を示す。
9 11	⑮選んだ記事に対して、資料を用いるべきかどうか考えながらより詳しくまとめていく。(ドキュメント、スライド使用)	⑮子どもたちが資料の必要性を考えやすいよう、〔見やすさ・簡単さ・必要性〕の観点で考えるよう促す。

12	⑯それぞれの作成したドキュメントやスライドを見あい、感想を伝え合う。 ⑰単元全体の振り返りを行う。	⑯子どもたちが、「資料の力」を使えたかについて話し合えるよう、学習のリメイク前とリメイク後の記事内容を比較し、どんな変化があったか具体的な意見交換を促す。
----	---	--

5 本時案

(1) 本時の主眼

説明的な文章における資料の有効性を学習した子どもたちが、教師が用意した文章だけの新聞記事を読み、内容をより分かりやすくする資料について考える場面で、新聞記者になりきって文章の中から資料を加えることでさらに考えが伝わりやすくなりそうな部分を探し出し、ふさわしい資料を考え出す活動を通して、目的に応じて文章と資料を結びつけることができる。

(2) 本時の位置 12時間中第5時

前時：筆者の考えた説明や工夫について自分の考えをまとめ、説明的文章における資料の有効性を確認した。

次時：集めた新聞記事の中から特に詳しく説明したい記事を選び、内容を理解する。

(3) 指導上の留意点

- ・子どもたちが見通しをもって学習に取り組むことができるように、単元でつきたい力を明示する。
- ・資料の効果について図を用いて示し、子どもたちが視覚的に把握できるようにする。
- ・意見交換がしやすいグルーピングを行う。
- ・子どもたちが文章と資料の結びつきを何回も考えることができるよう、資料が1つの記事、2つの記事にルビを振り、資料を抜いた文字だけの記事を用意する。その際、児童が理解しやすいよう、内容によっては言葉をかみ砕いたり、要約したりする。

6 本時の展開

	学習活動	予想される児童の反応	指導上の留意点 ◆評価	時間
導入	1 前時までの振り返りとして、資料があることで説明的文章の内容が分かりやすくなったこと(資料の力)を確認する。	・資料があることで、比べることが簡単になったね。 ・イメージしづらいことが具体的に分かったよ。	・子どもたちが資料の効果を含めて確認できるよう、前時までに確認した資料の効果や筆者の工夫を黒板に張り出す。	7分
	2 身近にある説明的な文章を見つける。	・図鑑は説明があるよね。 ・国語の授業でしか読んだことがないな。 ・新聞は説明的な文章じゃないかな？	・子どもたちが身近にある説明的な文章をこれまでの生活や経験の中から思い出させるよう、様々な場面を思い浮かべるよう促す。	
	【学習問題】新聞はどんな記事にどんな資料を使っているのだろうか。			
	3 新聞は説明的文章が多く、資料が用いられ	・多くの記事で資料が使われているね。	・子どもたちが新聞に資料が多いことを感じられるよう、様々	

	ている記事がいくつもあることを確認する。	・数字が多い記事はグラフが使われているよね。 ・自然のことは写真が多い気がする。	な分野の記事を一人ひとりの机に広げ、歩き回って見られるようにする。	
	【学習課題】文字だけの新聞記事に、記者になりきって資料を付け加えてみよう。			
展開	4 文字だけの新聞記事に、どんな資料があれば良いか考え個人ワークシートに書き込む。(個人)	・この数字は大切だから、グラフにした方が良くいかな。 ・どの資料を選ぶかも大切だ。	・子どもたちが文章と資料の結びつきを何回も考えることができるよう、資料が1つの記事、2つの記事にルビを振り、文字だけで用意する。内容によっては要約したものを用意する。	5分
	5 文字だけの新聞記事に、どんな資料があれば良いか考え、グループ用ワークシートに書き込む。(グループ)	・ここの数値は大切そうだから資料があった方がいと思うよ。 ・ここに写真があったらどうかな？ ・表を使えば分かりやすくなりそうじゃない？	◆目的に応じて、文章と図表などに結びつけるなどして必要な情報を見つけ出している。(記述・観察) ・考えを1つにまとめる必要は無いことを伝える。 ・グループ用の文字だけの記事に、みんなの考えを書き込んでいく。 ・行き詰まってしまったら、固有種が教えてくれることに立ち返ることを伝える。	8分
	6 全体で意見を共有し、どんな資料がふさわしいか考える。	・それぞれのグループで選んだところが似ているね。 ・〇〇の資料を選んだんだね。	◆話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(観察) ・それぞれのグループが書き出したシートを黒板に貼り出す。 ・それぞれのグループが資料を考え出した根拠を示せるワークシートを用意する。	10分
	7 実際の新聞記事と、自分たちの考えを比べ、新聞記事は、その記事を書いた記者の思いが含まれていることを確認する。	・選んだグラフが違うね。 ・私たちが考えたところと一緒だ！ ・僕たちの考えとは少し違ったよ。 ・ここも資料を追加した方が良いのに！	・実際の記事と子どもたちの考えた資料の違いが、読み手と書き手の違いだということを伝える。 ・資料には、書き手が伝えたいことを伝えやすくする効果もあったことを確認する。	5分

終末	8 本時の振り返りをする。	・文字だけの記事から、伝えた方がいい部分を見つけて資料を考えることができた。 ・新聞に使われている資料が、きちんと目的があって使われていることが分かった。	・振り返りが難しい子どもたちが、自分の言葉で振り返りができるよう、付け足す資料を考えることができたか、文章と資料の関係を意識して考えることができたか等、ポイントを示す。	10分
----	---------------	--	--	-----

7 児童の反応

・それぞれの資料の特性を理解し、新聞記事にふさわしい資料を選び出そうとしていた。

・言葉だけでは駐車場の様子が映像化できないため、写真を使うことを考えていた。

・数字だけ並んでいてもその増加状況がイメージできないため、グラフを使うと視覚的に伝えられる点に気づき、読者に資料を手掛かりとして記事の内容を理解してもらおうとしていた。

・「上高地観光」の記事では、記者が最も伝えたいこと、分かってほしい出来事の「根拠となる部分」を見つけ出し、その部分が分かりやすくなるような資料を考えていた。

・どんな資料を付け加えるかは、授業の最初に確認した資料の特徴と、伝えたい出来事の根拠となる部分とが、最もマッチする資料、ふさわしい資料かを考えて選んだ。資料の力を最も活かせるものを使っていた。

・その後の授業で、個人で考えたことをグループで練り上げることで、特徴を活かした資料を使うことへの理解が深まり、資料の完成度を高めていた。



(6) 1年間取り組んだ成果と課題

① 成果

・NIE タイムを行ったことで新聞にあまり親しみのない低学年を含め、全校が定期的に新聞に触れることができ、活字に触れる機会が増え、子どもたちが文章に興味をもつことができた。

・新聞作りでは、新聞から見出しや写真などの工夫されている点を見つけ、自分の新聞に活かすことができた。

・言葉の語彙が増え、言葉をまとまりでとらえて、文中で使おうとする姿が見られた。

② 課題

・NIE タイムを継続的にやってきたことはよかったが、NIE タイムに慣れがでてきて、それぞれの活動が作業として行うようになってしまった。取り組みに工夫が必要だった。

・新聞の記事紹介など内容理解が必要な際に語彙理解や漢字が読めないということがあり、予めルビをふるといった工夫をして活動を進めることができればよかった。